



## 新国立建設の発端

新国立競技場の問題は、お金の問題だけではなく、神宮外苑の環境保全の側面などいろいろあるが、ここはひとつ、お金の問題に絞って話をしたい。

二千五百二十億円（あるいはそれ以上）という建設費のうち東京都は五百億円を負担するべきなのか。東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長は「（五輪は）東京都がやりた

進決議」を行ったこと。東京五輪の招致決定は一三年で、建て替えが決まったあととの話だ。東京都が、一〇年のために建て替えを要望したわけではない。

猪瀬直樹前知事は、下村博文文部科学相との話し合いで、五百億円の負担はできないが、周辺整備費のうち都民の便益となるインフラについては負担する考えがあり、その場合、設計内

# 五輪じゃなくラグビーW杯

一九六四年の東京五輪の際、大幅に改修された旧国立

いと言った。東京都が場所を用意するのは当たり前のことで語っている。だが、この論理はちょっとおかしい。

五百億円というのは、〇八年北京五輪のメインスタジアムだった「鳥の巣」の総工費とほぼ同じである（現在のレートで換算すると約五百二十億円）。そ

なせなら、新国立競技場は東京五輪のために建設が決まった事業ではないからだ。建て替えのそもそものきっかけは、二〇一九年のラグビー・ワールドカップの招致が決定して、ラグビーワールドカップが一年に「建て替え推

容を精査する必要がある、こう回答したと猪瀬氏がツイッターで明らかにしている。

五百億円といふのは、〇八年北京五輪のメインスタジアムだった「鳥の巣」の総工費とほぼ同じである（現在のレートで換算すると約五百二十億円）。そ

れは東京都が五百億円を出さなければならない。なぜ新国立競技場には東京都が五百億円を出さなければならぬのか。現行案が都是民から十分に支持されているなら検討の余地もあるかもしれない。だが、とてもそうは思えない。舛添要一知事は、現行案を支持査してみるべきではないだろうか。（スポーツライター）

あとは例えば、スポーツぐじ「toto」の売り上げによるスポーツ振興基金からも百二十億円が拠出されるという。これは本来、国際競技力の向上（選手の海外リーグ参戦など）や、地方の施設の改修、スポーツ教室の開催など、日本のスポーツ振興のためのお金である。新国立競技場のために百二十五億円も使うのは適切なのか。